

IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム第10回会合 発言録

2021年11月29日

[0:16:23]【前村】 皆さんこんにちは。前村でございます。もうちょっと待ったほうがいいかなと思い、もう少し待つともうちょっと人が増えるんじゃないかなっていう気がするんですが、2分ぐらいもうちょっと待ってると思います。はい、それではそろそろあんまり待ってばかりもいられないと思うので、進めてまいりたいと思います。

本日も私が司会を務めさせていただいてよろしいでしょうか？異論があれば言っていただいとこのもなかなかこれも難しいっていうのか、嫌だよって言いにくいんじゃないのかなと思うんですけど、ちょっとすいません、こういうプロトコルだということでご承知ください。

それではアジェンダなんですけども、ここに書いてある通りじゃないのかなと思います。上下に行ってもらわないとあれですよ。本日の打ち合わせの目的確認なんですけど、政府の状況を教えていただくということと、報告会に向けた準備をしていきたいなということです。それともう一つここに入っていないなと思ったのは、今後の検討体制崩壊はいいとして、今後の検討体制どうするんだっていう風な話も議論をした方がいいんじゃないのかなという風に思っています。

1.の目的確認のところに書いてなかったですか。確かにそれで前回の議論の振り返りと本格体制といったところですね。ということと、もう一つカトヴィツェへの参加の計画の共有ということで、計画がある方は是非共有していただきたいということで、という風な感じですかね。あと次回の打ち合わせについても確認をして宿題など確認していきたいと思います。

それでは戻っていただいて、前回の議論のうち振り返りということなんですけども、まずひらにお詫びしたいのは、第7回の会合からの議事録の作成がまだできていない状況でございます。これはこういう風な前回の議論の振り返りのようなときにもですね、それが使えないということなので、ゆゆしき事態だなという風に思っているところです。なんでこういう風な事態になるかということ、言い訳的なんですけども少し申し上げると、それだけ精緻な議論を残そうとして議事録を作っていて、かなりどういった発言がされたかっていうのが分かるような感じで書いてあるという風なことですね。もう一つはもう少しリソースを投入してやるべきなんじゃないかということで、現在、山崎と一緒にどうしたらいいのか、道具立

てを考えているところですが、一つは外注してしまうっていうのも手でしょうし、もう一つは、今日今使ってみようと思ってるんですけども、ディクテーションツールっていうのがあって、今までもですねアマゾントランスクリプトを利用していたんですけども、それ以外のツールもちょっと使ってみようということで使ってみようとしています。ということで、この辺議事録に関しても素早く素早くっていうのはちょっとすごくチャレンジングな言葉なんですけども、速やかに出せるようにしていきたいという風に思っています。

それで第9回会合の概要を振り返ってみたいと思うんですけども、そういうわけですごくざっとした概要がそこに書いてあります。状況報告を頂きましたということ、そして2021の事前会合の振り返りに関して色々振り返った、ああだったこうだったということでやりました。全体として議論の時間があんまり取れなかったんじゃないのかなという風なことは共有されていたんじゃないのかなと思います。その次には2021の報告会についてどういう風に考えていこうかということで、これも議事録になったら、非常に多岐に活発な議論をしたなということが思い出されると思います。未だに議事録なくてもそれを思い出す訳なんですけど、ひとまずですね、上村さんにプログラム構成案をお考えいただくということでお願いしていたという状況だったと思います。それで報告会をどういう風な形でしていくのかというのは統一的な構成には至らなかったのかなと思います。セッションの構成に関しても、いろんな意見があった方がいいという意見もあったし、しない方がいいということもあったしで、位置づけあたりも整理していく必要がまだあるという風なことなんだろうなという風に思っています。それで本日もしできるんだったら記述を決めてしまいたいという風には思うんですけども、ご意見いただければなというふうに思います。

あとサブチームの今後に関してですけども、これ特に加入脱退のプロセスを定めるという風なところには、前回は議論に至ってなくて、各サブチームでどうするかというのを考えてくださいという風なことを申し上げたんですけども、特にここまで動きがあったようには思っておりませんという風な状態です。あと報告会以降の推進体制というのかは資料を前村から出すというふうに申し上げたところなんですけども、ちょっと目には出す出す詐欺になってしまっておりますが、本日推進体制に関しては実は第一回、第二回、第三回の辺りで事前会合だけではなくて、もう少し後ろの2023年までどうやっていくかというところを検討していますので、それを見返すっていうことをやってみると良いのではないかと本日勝手ながら思っております、ということです。これで振り返れましたかね。

お気づきの点があればよろしく申し上げます。なければ次に参りましょうかね。宿題の進捗確認ということで申しましたが、専ら議事録が残っていたり、資料公開の方は残っていたりという風なことで、事務方側の作業が大変滞っているということで大変申し訳ありません。この辺山崎さんからなんか補足ありますか？

[0:37:02] 【山崎】 特にございません。

[0:37:04] 【前村】 分かりました。それでは次に参りましょう。政府からの検討状況のご報告をいただきたいと思います。飯田さんお願いできますでしょうか。

[0:37:20] 【飯田】 聞こえますでしょうか。いよいよ来週がカトヴィツェということで、今我々も参加の準備をしております。現状の予定ですと、12月5日日曜日出発で佐々木総務審議官ヘッドと、私ども総勢5名で現地に行ってハイレベルセッション、Day 0のハイレベルセッションに参加をしたり、あとオープンフォーラム主催を一つしますけれども、その他にいくつかinviteされているオープンフォーラムにも参加をしたりすることを考えております。それから23年の主催国として、事務局の方からクロージングのセッションに総務大臣のビデオレターを欲しいと言われてまして、今準備をしているところです。これは最初からビデオですけども、ただ皆さまご案内の通り、急速に欧州の状況が悪くなってまして、海外からの渡航者の入国が基本的に止まってしまったという状況ですので、予定通りに現地に行けるかどうかはちょっとだんだん怪しくなっているところです。駄目だった場合は、オンラインでも全てハイブリッドですので、オンラインに切り替えて対応するというのでやっていきたいと思っております。そこから先の対応は来週のIGFが終わってからということになると思いますけれども、そこでですね、現地行ったらハイブリッドの会議ってどうなるのか、どれぐらいの人が現地に来てくれて、どれぐらいの人はオンラインなのかとか、途上国がどんななのかとか、いろいろ見てきたいんですが、まだ希望は捨てておりませんが、若干心許なくなっておりますので、以前にましてもオンラインになっちゃったらなっちゃったで状況をよく吸収して、再来年に向けての検討材料にしていきたいと思っております。あと通常現地に行くと自分たちが登壇したり参加するだけじゃなくて、いろんなセッションを聞いたり仲間とのネットワーキングができるので、それもまた一つ重要なことではあるんですけども、もし現地に行けなかった場合は、皆さんも同様かと思えますけど、オンラインで参加できるセッションを選んで覗いてみて、再来年に向けてのテーマ作りというのを材料にしていきたいと思っておりますので、こういうところは皆さん意見交換、情報交換しながらやればと思っております。以上です。

[0:40:36] 【前村】 ありがとうございます。ご質問ご意見などありますでしょうか。

それでは次にまいりたいと思います。本格体制をどうするか、すいません、ちょっと順番がこうなのかなっていう気がしましたね。今後のエンゲージメント活動と、あとIGF 2021報告会に向けた体制というところなんですけども、まず上村さんにお尋ねしたいんですけども、プログラム案みたいなものを検討していただくことをお願いしておりましたけども、そちらの方の按配をお聞かせいただければと思います。

[0:41:34] 【上村】 今チャットにURLを送ったので、それをご覧ください。ちょっとまとめていて緒言っていかどういいう仕様で案を作ればいいのかかなんとなく分からないところもあったので、とりあえず比較的軽量ですけど作ったのでこの話をすればいいですか。この内容について趣旨とか含めればいいですよ。

[0:42:05] 【前村】 はいそれをお願いします。

[0:42:07] 【上村】 アクセス権が必要だと出てしまいました。失礼しました。自分しかアクセスできない状態でした。

[0:42:18] 【前村】 私のところでも出てました。

[0:42:21] 【上村】 何でもできるようにします。もう一度アクセスしてみただけでいいよか。

[0:42:32] 【前村】 はい。

[0:42:34] 【上村】 大丈夫そうですね。ウサギさんとか羊さんとかがアクセスしていると出てきました。まず？を付けてますけど、報告会っていう名称でやる会だったのか、それ以外の会だったのか、なんとなくそんな話も前回の会合の後に出たような気がしまして、それで確認しておきました。共有した方がいいですよ。念のため共有します。それで主催もあれこれ誰だっけみたいなことを準備しながら思ったもので、ここもはっきりとその場で決めていただく必要があると思います。

そもそも私は何の帽子で書いてんだっていう話を展開しましたが、それでまず目的です。目的は報告会というお題で案を作ったので、まずはIGFの内容について振り返ることだろうと思います。それからもう一つは国内のインターネットガバナンスに関する論点を洗い出すというのがあった方がいいと思います。これは2020年もそうだし、23年に日本開催するときに、そういうことを基本として議論をリードするのかっていうこととも関わるだろうと思うからです。ですから、もう一つがこれは報告会っていうのはそれを受けてるんですね。

今言ったことと繰り返しになりますけど、JPとしてIGFに行った時に一体どういうメッセージを出すのかとか、その後それを国内にどう展開していくのかといったことについての方向感を少しでも持てるっていうことを目的として考えてます。それから最後の点は人によって、特に私は縮小均衡でいいんじゃないかって言ってきましたけど、それでも多分ないと思ったので、やはりIGFにこれまで接点を持たなかった人が何やってんのっていう興味を持って業務を見てくださって、インターネットガバナンスのコミュニティを広げることにつながらなければならないだろうという風にちょっと思いを改めております。なので単に報告会を粛々と開催するだけではなくて、コミュニティを広げることにつながるような、あるいは、2023年の日本開催に繋がるようなコミュニティビルディングの機会にすべきということも目的として考えています。

そのこと書いてますけど、開会があって閉会があってその間に主に三つのコンポーネントを今考えてます。時間はとりあえず30分じゃないだろう、45分でも短いだろうという程度で60と入れているものなので、もしかしたらもっと長い子がそうかもしれません。一つは報告部分ですね。2021の内容を私が好きな言葉で言うと解題するという点です。いろんなセッションがあるのは当然なんですけど、そのようなセッションの中でいったい21年の時を特徴づけるトピックだとか議論だとかあるいは人は何だったのかっていうことを解題してもらうっていうことです。パリ会議だったらマクロン大統領のパリスコールとか、ベルリン会議だったらメルケルとか、メルケル演説じゃないですね、グテーレスとか、そういったハイレベルパネルの議論はどうだったかとかですね。そういったことが主要な大きな動きだった訳ですけども、IGF 2021では一体それに相当するものが何だったのかっていうことを行った人の話を中心に解題するっていうのが趣旨の一つです。

[0:46:24] 【前村】 瑣末な指摘なんですけど、（投影資料中の）改題は多分解題ですよ。

[0:46:33] 【上村】 失礼しました。（その場で修正）

[0:46:35] 【前村】 ありがとうございます。

[0:46:38] 【上村】 それと絡みますけど、目玉が何だったかとか主要な論点は何だったかっていうのをそれぞれの立場で全てを平均的に要約するということはせずに、それぞれの立場で何に注目していたかっていうことをお話しいただくほうがいいだろうと思っています。ちょっとそこを書いてませんが、二つ目はそういうつもりでいますので。たぶん私だったらドメイン名とかガバナンスの在り方とか、行きませんが仮に行くとしたら、そういうことをこの場で持ち帰ってくるということになるだろうと思いますが、それぞれの安心に応じて報告いただくということです。

それでもう一つ僕ができたらいいなと思うのは、将来的な話にも繋がる訳ですけど、日本が深く関係しそうな論点がなかったかっていうことですね。いつもありそうでないようで、あったとしても、なかなか報告会では拾えないってところもありますけど、平均的にまんべんなく報告するということではなくても、やはり日本と日本のインターネットガバナンスと絡めて何が議論されたのかっていうことを洗い出すのが良いかと思います。登壇者としては行った人、参加した人ということイメージしています。こういうことをすると、たぶん60分では少ないと思うし、内容を変えるか枠を変えるかどっちかしなければならないと思いますが、そんなことを考えてみました。

それから二つ目のテーマセッションですけど、これは報告会じゃなくてもいいんじゃないかって思い始めたので、IGFの議論と関係があってもなくても構わないので、テーマ型のセッションを設けてみてはどうかと。そうしないと、多分今までIGFに関わりを持ってこなかった人に出てくださいとか、この場にですね、言えないと思うので、こういうものを設けていければなと思いました。

ただ、できればIGFの議論につながるような日本の論点を取り上げた方が良いと思います。具体的に何なのかはちょっと出せないんですけど、日本ローカルの議論よりは、議論の結果をそのままIGFのセッションに持ち込めるようなものであった方が使いまわしができて良いのではないかと考えています。報告と報告会の内容とは関係なくて良いっていうのはそういう意味です。なのでここはじゃあどういふ論点を取り上げればいいのか？っていうことが重要になる訳ですけど、テーマを決めなければなりません。それからもしかするとIGFに今まで行ったことも聞いたこともない人を登壇そういう人に登壇していただくかもしれないので、

そのテーマに応じてどういう方に来ていただくかを考えなければならないかもしれません。そういったことを組み合わせてはどうかと思います。それから四つ目のビジネスセッションっていうのはこれ産業界という意味ではなくてこのこの場というかこの報告会とかそれをどうするかっていうっていうことを検討するセッションですね。よく英語の英語っていうか、この分野の会議だとビジネスミーティングとかありますけど、それと同じようなイメージです。国内組織とかその後報告会以降どうするのかということを中心にちゃんと話す時間を設けてはどうかということです。

開会の挨拶と閉会の挨拶がありますが、前回の何でしたっけ、事前会合のときにたすき掛けで挨拶があったので、今回もそれをイメージして挨拶をわざわざ二か所に入れています。とりあえずこんなの誰が考えても同じものができちゃうだろうっていう気もしますが、私の方で書く議題っていうのかなとして考えたのはこの通りでしたということで、では前村さんにお渡しします。

[0:50:54]【前村】 ありがとうございます。誰か考えてもおっしゃいましたけど、こういう風な形になると、実は僕は思ってなかったんですけど、もう少し報告どーんと行くっていう感覚なのかなという風なことだったんで、とてもそういった意味で興味深いものを拝見していると思っています。

コメントやご質問など皆さんからお受けしたいと思います。いかがでしょうか。声を上げていただいても挙手機能を使っていただいても結構です。ではまず私からなんですけど、よくIGFの報告をもちろん報告会なんだからIGF報告はした方がいいけれども、そうは言っても全体をのべっと見るんじゃなくて解題という言葉でおっしゃいましたけど、そういった、つまりこういうことだったんだよという風なやり方をするっていうのはいいんじゃないのかなと。解題もそうですし、日本に関係するっていうのも重要なポイントなんだろうなと。思い思い思いありがとうございます。それで報告枠だけではなくて事前会合のようなテーマセッションを設けるといってもいいだろうなと思いますんで、そうすると、テーマセッションを持つのであれば、前回第9回の活発化チーム会合の時の議論でもテーマ会合だったら公募したいかもしれないな、みたいな雰囲気があったんじゃないのかなと思うんですよね、報告だったらまあいいかなという風な、私の捉え方、私自身のバイアスが入っちゃってるかもしれないですけども、それは少し気になったところであります。あとビジネスセッションもおっしゃいましたけれども、今後こういう活動していくんだという議論はぜひともやった

方がいいなという風に思いました。ありがとうございました。そのほか皆さんいかがでしょうか？

[0:53:14] 【上村】 今前村さんがテーマセッションの事をおっしゃいましたが、私の解釈はテーマというかそういうサブスタンスを使うセッションであっても、主催者企画のものだったら別に公募じゃなくて、この場で一回で実行委員会的な人たちが決めていいんじゃないかと思うんですよ。ただ外から募るものであれば、実行委員会の外からそういったセッション企画を持ち込んでいただくようなものだと、ちゃんと審査みたいなものがあっていいと思います。もちろん内輪が企画しても最低限のインターネットガバナンスのプリンシプルに沿っているかとかは気にした方がいいと思うんですけど、ちょっとそこが私の頭の中では二つ違うものという認識で、学会的には投稿論文と招待論文の違いみたいな、そういうイメージなんですけど、このアナロジーが伝わりますかね。伝わらないかもしれませんが、そんなイメージです。

[0:54:25] 【前村】 ありがとうございます。

[0:54:27] 【上村】 ということで、ご意見いただければ。

[0:54:30] 【前村】 私ばかりでもいけないと思いながら、ショートにするとそうなんですよね。公募にしなくたって、沿ってればいいんじゃないかと実は僕も思いがちなんですよね。思いがちだったところを、結構公募にこだわってこのグループやってるんじゃないのかなという風な気がしてたんで、最初に僕は申し上げたような線だったんじゃないのかなという風な感じがしたということなんですけどね、考えは分かりました。皆さんいかがでしょうか？

[0:55:16] 【上村】 そしたらちょっと私から聞いてみたいんですけど、報告会、さっき自分でやって60分はきっと短いだろうなと思っていたので、仮に両方の要素を入れるにしても、もっと時間を使うとか2本立てにするとかあると思うんですけど、今いらっしゃる方は報告会とかそれに類する名前で会合を開くとしたら、何を期待されるんですかね？ どうだったら良いのかなんでしょう？

[0:55:49] 【前村】 それは聞いてみたいですね。

[0:55:53] 【上村】 あるいは逆にこれ聞いてこいみたいなのもあるんですかね？時間の都合がつくか分かりませんが。

[0:56:18] 【前村】 ぜひともお考えをお聞かせください。これでもうやっていいよ、っていうことなのかもしれないですけど。高松さんお願いします。

[0:56:48] 【高松】 あんまり考えが奇麗にまとめきれてないんですけど、まずどんな報告、IGF 2021報告だといいかなくていうところなんですけど、私は60分枠でもいいんじゃないかなと思いました。コンパクトに10分程度で報告をして簡単に質疑で4名ぐらいいたら、結構充実した雰囲気にも感じる人には感じるんじゃないかなっていうのがその理由です。報告のところでどういう話が聞けると嬉しいかなっていうところなんですけど、それについてはやはり全部はフォローしきれないので、気になっていたところにも参加している方から報告が出たらそれは嬉しいですし、あとは全然自分が興味を持ってなかったところでも、他の人が出てみたんですけど、自分が今持っている興味ではないところ、直接自分の業務とかには関係ないかもしれないですけど、そういうところに興味を持つ人が日本にはいるんだっていうのを知ることができて興味深く報告として受け取れると私は思います。というのが報告のところについての意見です。

もう少しお時間いただいてセッションのところなんですけれども、ここって例えば今回日本政府の方から話を発表、オープンフォーラムを含めてするっていう手間があるんだとしたら、それをベースに立場の違う人達が集まって意見交換をするみたいな、そういったのが可能なんだろうかっていうのが気になりました。もししていただけたら、それは日本政府として興味を持っているセッションっていうのがインターネットガバナンスのこのイベントに参加する人達にもより深く伝わるきっかけにもなるんじゃないかという風に思ったので。以上です。

[0:59:09] 【前村】 そのほかいかがでしょうか。山崎さん、パチパチパチなのか？手を挙げてただけ。

[0:59:17] 【山崎】 手を挙げたつもりで拍手しちゃいました。

[0:59:25] 【山崎】 高松さんのご意見にコメントをしますと、他の自分が知らない興味を持ってなかったところを、誰かが他の人が興味持ってるっていうことを知れるのが良いという

ことであれば、60分では短いっていうか、結構幅広く色んな人が報告し、いろんな分野、いろんなステークホルダーの人がいろんな分野について報告しないといけないんで、60分でその気付きを得られるっていうのはちょっと難しいかなっていう気がいたしました。以上です。

[1:00:10] 【前村】 その他いかがでしょうか？加藤さんお願いします。

[1:00:13] 【加藤】 ありがとうございます。何かぜひコメントしてということなので申し上げますけれども、僕も今の報告について大きく分けると3つとか4つの報告を聞きたいっていう考えがあると思うんですけども、それを上村さんがうまくそれぞれの希望に沿ってまとめていただいているっていう気がします。

一つは2021ってどんなだったろうっていう、全体を解説する、ただ正直言って現地に行けなくてもリモートで参加したり、いろんな報告とかいろんな毎日のIGFから出されるものを見ると、大体の流れっていうのは分かるんですよね。だからそれを追っている人であれば、これは本当はいらないのかもしれないですが、けどやっぱりいろいろ考えて実は大多数はやっぱりこれ全体ってどんなだったろうっていうのを、まず誰か本当に権威持って分かる人に聞きたいっていうのがあって、ぜひその辺を全体として今回はこういう流れだったっていうことをですね、解説していただくのは本当はこういう報告会としてはすごく有効だと思います。

それが三分の一ですね。それで目玉は何だったかとか主要な論点、日本が関係しそうな論点、まさにこういう点なんですけども、何が重要だと思ったかっていうのは、実はこれ凄く個人によって視点が違ってですね、みんな象の耳触った人としっぽだけ触った人とか、みんな、僕自身がそうなわけですけども、そういう人が多いので色んな人がいた方がいいって、多分これも複数の方がいた方がいいのかなっていう気がします。三分の一の、10分、10分、10分でもいいですけども、自分はここがすごくいいと思ったっていうようなことを二人か三人が言っていただくと非常にありがたいかなっていう気がします。三つ目として、今回こういうことを言ったっていう、日本としてこんなことをしたとか、日本として特に関係する目玉的なことをやった人、そこでこういうセッションをやったっていう人、特にそういう方の生々しい意見を是非伺いたいのので、それが残りの三分の一って意味では皆さんのこの仕分けがすごく良くて、そういう意味で言うとさっきの山崎さんのコメントじゃないですが、そ

れぞれ30分ぐらいあるとなんかすごい満足感があるかなっていう報告としてそんな気がいたしました。以上です。

[1:03:01] 【前村】 加藤さんありがとうございます。上村さん、それに対してなるほどかありますか？

[1:03:07] 【上村】 なるほどって思いました。仰る通りで、確かに60分だと多様な論点とか気にしないとしても短いような気がするので、なんとなく一つの枠にしてしまうとどうしても一人当たり話し過ぎちゃうこともありますから、2枠に分けて45分、45分かすると今までのロジ的な反省を踏まえるといいかもなと思いました。それも細かいことを感じましたけれども、過分なお言葉を皆様から頂戴して恐縮です。そんなところです。

[1:03:46] 【前村】 お願いします。

[1:03:54] 【岸上】 ずっとサボっててすみません。出てきました。今の話でちょっと気になってるのはテーマセッションに絡むのかもしれませんが、W3Cで結構いま盛り上がってるのはサステナビリティの話なんですね。サステナビリティでもずいぶん広い範囲をカバーすると思うんですが、特にその中でエネルギー。なんでW3Cがエネルギーかという、端的に言うと、例えばブロックチェーンのProof of Work (PoW)みたいなことをやる時に、特に中国を中心として膨大な電力を使ってるっていうような話で、その標準を決める時にそういうことをやっていいんだろうかっていうような話がにわかに出てきてですね、IGFの範囲になるのかどうか分からないですけど、サステナビリティみたいな話があると私としては嬉しいなっていうのが一点です。

もうひとつはこれはもうすでに出されているかもしれませんが、結構W3Cっていうのはホリゾンタルなレビューをセキュリティとかプライバシーとかあるいはアクセシビリティとかサステナビリティも入るかもしれませんが、そういう観点で見るとですけど、その中で内閣なんかでやられてる楽天的なトラストの話ですね。例えばフェイクニュースとかいろんな観点であるかと思うんですけど、なんかそういうのがIGFにもしあるのであれば、そういう話題も非常に興味あるなと思ひまして、全体のデブリーフィング、報告みたいなものは、もちろんそれはそれで非常に重要だと思いますし、もしトピックとしてそういういくつかのものが、今私は二つ挙げましたけどであると非常に話が広がるんじゃないかというので、全体のことはあんまり理解せずに勝手に喋りましたが、二つコメントです。以上です。

[1:06:20] 【前村】 ありがとうございます。他に皆さんいかがでしょうか？

[1:06:32] 【山崎】 山崎ですけどよろしいですか。他にコメントを聞く前に今の岸上さんの意見にどなたかコメントしていただいた方がいいんじゃないかという気がしますが、例えばフェイクニュースとかエネルギーの話とかで毎年やっているように思うんですけど、毎年参加なさっている上村さんとか小畑さんとかいかがでしょうか。

[1:07:15] 【前村】 いかがでしょうか。そうですね、そういったテーマに関してこんな感じなんですよとかっていう風なことがありますかね？そういうコメントがあるんだっいたらいただいた方がいいということです。

[1:07:31] 【上村】 すいません、今私の所だけなのかもしれないけど、山崎さんのハウリングして全然聞こえなかったんですけど、何が語られたのでしょうか。

[1:07:41] 【山崎】 大したことは言ってないんですけども、今の岸上さんのコメントに対して、IGFでは毎年例えばエネルギーのセッションも確かあったと思いますし、ブロックチェーンのセッションも毎年あると思いますし、この辺のことは取り上げてるんじゃないかというあたりのことをいただいてもいいのかなと思いました、ということなんですけども。音声聞こえておりますか？

[1:08:10] 【上村】 よく聞こえます。

[1:08:14] 【前村】 だからそれを取り上げてっていうこと、どういうふうに料理するかっていうのは何か難しそうなのがするでしょうけど、その他ありますか？コメントを貰っていくのもほぼ一周したということなんであれば、こんな感じでいいかなという風なことを決めていかなきゃいけないと思うんですけどね。決まり方向にしていかなきゃいけないと思うんですけど、これだと長さは3時間ですかね？全部で4時間ぐらい、3時間でお考えなんですか？

[1:09:16] 【上村】 そうですね、はい早く次、が苦手なもので時間ぐらいはあってもいいかもしれません。

[1:09:21] 【前村】 事前会合は3時間かけるという感じのフォーマットでやりましたよね。事前会合ほど盛りっていいのか、セッションが6つだったんですけどっていう感じではないので、3時間でいいのかなという風な感じもしますが。どうせ時間が足りなくなるんじゃないかっていう話があるのかもしれないですけど、その辺は皆さんご意見いかがですかね？3時間あるいは4時間とかっていう感じで大丈夫でしょうか。4時間って言ってるのは3時間で作っていったらなんとなく膨らむのかもしれないな、なんて思って、ちょっと用心してるってことなんです。

[1:10:15] 【上村】 たたき台を出した立場としては、どうせ長くなるだろうから最初に短めで。皆さんのご意見をいただきたいのは、今回あえて公募によるセッションっていうのを設けないことにしていて、どっちもありうるという理解のもと、片方のテーマセッションのパターンだけを挙げていますけど、やっぱり人寄せっていうとあれですね。まあでも関心を広く持ってもらうには、自分が仕切って何かできるかだった方が参加しやすいという人も当然いると思うんですよ。だからそういうのがあってもいいのかなっていう気もするんですが、どうなんですかね。そのテーマセッションが改めてそっちにするっていうこともあれば、少しずつ短くしてもう1枠入れるっていう考え方もあるかもしれないですけど

[1:11:15] 【前村】 堀田さんお願いします。

[1:11:19] 【堀田】 ご無沙汰しています。個人的には4時間は長いなっていうのが1回、4時間少なくとも長いから、ずっといるのは大変だなと思うのと、あと公募がいいかどうかっていうのは、公募でなくていいんじゃないかっていうのは、前回提案を出していただいて審査してっていう状況を見てると、前はいっぱい出てきたけど今度も出てくるかどうかはあんまり自信がないっていうのが、審査していた者の直感です。それでいい、多分テーマ引っ張り出す方法としては、やっぱりIGF 2021の中で話題になったので日本の中でも盛り上がりそうなテーマを選ぶっていうのがいいだろうと思うとですね、一般公募じゃなくて我々活発化チームプラス参加した人でいいと思うんですけど、中で話し合っただけでこれとこれだったら日本で盛り上がるんじゃないかっていうのを一つ二つ作り出すっていうか、洗い出すっていうのが結果的に一番人の興味を引くんじゃないかなっていう風に思いました。以上です。

[1:13:07] 【前村】 ありがとうございます。コメントします。少し枠は広げるということのかもしれないですけども、つらつらと考えていたことには、事前会合を今回事前と言いながらカトヴィツェのことを何か話していたわけではなくて、オープンコールしてセッションを複数

というのかいくつか作るということをやったという意味では、非常にNRIのイベントらしいものを作ったんですね。事前と言いながら。それで報告会っていうのは報告会っていう名前と中身がどれくらい差があるとか、どれくらい大意を表わすっていうのは色々あるんだろうと思うんですけど、ちょっと考えたのはですね、事前会合っていうのは実はNRIとしての年次会合みたいなものを志向していたと。それとは別にIGFの報告会っていうのはやった方がいいのかなんていうことを思ったわけですね。それがなんでそういうことになるのかというと、NRIとしてはIGFのようなマルチステークホルダーの対話の場をっとナショナルレベル、リージョナルレベルでやるっていうことを想定していて、それに対してレポートを出してくれよみたいなことを言われるわけですね。であればそれは実装していくっていうことが必要で、それにプラスの報告会のような、何でしょうね、アニュアルNRIカンファレンス以外にもファシリテーションとか、プロモーションとかで報告会みたいなことをやってるよっていうという風なことを我々はやろうとしてるのかなと思ったんですよね、という感覚でありました。なので何が言いたいかというと、この報告会に関しては、今のような勝手なひとつの年間スケジュールで二つの会合をやって一つは本会でもう一つは報告会みたいなことを勝手に今言ってるんですけども、そういう風なことを考えて、報告会では活発化チームなり、その運営チームが考えた形でやるっていうのはありなのかなという風なことを思いました。皆さんとしてっていう活発化チームとしてそういう形でやるぞみたいなことを最終的には決めるっていうことなんだろうと思うんですけどね、どうですかね？そういうイメージで皆さんなるほどね、それいいねとおっしゃるのか、いやちょっとそれ違うんじゃないのかとお考えになるのか、どっちかっていうのをちょっと聞いてみたいところですけど。

[1:16:33] 【上村】 私が喋っちゃっていいですかね？事前会合と報告会両方いつまでそういう名前でやるんだろうって素朴に思っていたので、棲み分けとか、メリハリがつくんだったらいいんじゃないかという気がします。順番を逆にするよりは、事前会合と報告会的なものの方が良さそうだなと思ったら、やっぱりNRIの活動をやってそれを持ってIGFに行くっていうのが多分流れとしては逆よりは、今までの事前会合が年次会合的なものになってった方がいいかなと思いますけど、そもそも二回やるのかっていう問題もあるかもしれませんけど。

[1:17:21] 【前村】 それもあるんですね。堀田さんの手が拳がっています。

[1:17:27] 【堀田】 2回やれるならやっていいんですけど、多分我々の体力が持たないように思います。終わりに正直ベースですね。事前会合ってというのは非常にいい感じだったと思っているので、あれを年二回やってんで報告ってというのが必要だったらそこに集客させていくって。事前って言いながら本当は、九月じゃなくて五月でもいいわけので、そこで話したのがこういうことをちょっと喋りたくなってきたから本番のグローバルのIGFにしてみたいな感じになる方が我々の活動としては活動としてエコシステムが動いてる感じになるので、報告会と議論会を年に2回やるってというのはちょっと大変かな？っていう風に感じます。感想です。

[1:18:42] 【前村】 ありがとうございます。

[1:18:47] 【上村】 これは年二回フルスペックっていうのかわかりましたけど、こう大きなものをやるのが大変っていうことですよ。きつ行った人と聞きたい人だけが集まって報告聞くっていう側、小規模にあってもいいのかもしれませんが、それはこの場とは無関係にやってもいいことかもしれませんが。確か二回っていうのはしんどいかもしれないですね

[1:19:11] 【堀田】 そうですね一回小さい報告会じゃなくてもラウンドテーブルでもいいと思うんですけど、二回でかい会をやるのは大変かな。

[1:19:30] 【前村】 そうですね。事前会合みたいなプロシージャーがあってっていうものを二回回すのはちょっと非現実的だなと思います。二回構成っていうのを考えるとすれば、今しゃべってるようなアイデアの報告会っていうのは、ラウンドテーブルっていう言葉がひょっとしてそれに当たるのかもしれないですけども、小さな運営でやるっていうふうなことが当然想定されるのかなと思います。何せなかなか手が回ってない張本人なんで、そんな大風呂敷を広げるのはなかなかできないなと思ってもいますし。

そういう風な観点から言うと、こんな感じでこれくらいの、上村さんが今お書きになったぐらいの規模の報告会を軽めにやるという風な感じのイメージでいいですかね。それで皆さんのイメージ合ってますかね？そもそも一回にしようということになるのであれば、ちょっと報告会っていう話をし始めなきゃよかったとか、実はこれはやるべきじゃないんだみたいな議論もしなきゃいけないんだけど、そうじゃなくてケイデンスのためっていうのもあるけど、

やった方がいいと思うんですよ。そこが今の堀田さんのアイデアと少しコンシステントとではないな、と思っはいるんですけどね。

[1:21:29] 【上村】 フルスペックの二回ではなくして一回は軽量軽量級のものと考えればありなのかもしれないですけど、そうすると私が3番目の3で挙げたテーマセッションをやるかっていうとちょっとまあ残りますけど。これも全然知らない人をお願いしてきてもらいたいなことをすると、結構大変なことになりますよね。どうなんでしょう。今日はどこまで決めればいいのかわからないので。あと主催についてコメントが付いてますけど。その話もどっかでないといけないと思います。

[1:22:14] 【前村】 その前に確か6時から会議だと、飯田さんというか総務省さんがおっしゃったような気がしますけど、飯田さんここまでコメント何かありますか？それから逆に飯田さんに質問しなきゃいけないことがあったら今がチャンスだと思うんですが。

[1:22:46] 【飯田】 すいません。今呼ばれましたか？

[1:22:48] 【前村】 はい、もうそろそろご退出ということですいません。

[1:22:51] 【飯田】 ちょっと私6時からOECDの方の打ち合わせがありまして、申し訳ないんですがそちらの方に移りますので、また後でご報告を伺いたと思いますけど、よろしくお願ひいたします。状況はこんなですけど、是非できる限りはみんなで参加をしてさらになげしていきたいと思ひますのでよろしくお願ひします。すいません、途中で失礼します。

[1:23:18] 【前村】 ありがとうございます。さてそれじゃどうしましうかね？主催の話っていうのもあるんですよ。主催の話をしないと材料が揃わないですかね？ここは前から事前会合に関してもちょっとくすぶってるっていうのか意識が合わないところではありますよね。堀田さんお願ひします。

[1:24:23] 【堀田】 JPNICさんかJAIPAさんかどっちかがIGTFみたいなのを立ち上げてくれて、そこにお金を集めて事務局をお金使ってやるっていうことに早く移行した方が話が早いように思ひます。

[1:24:46] 【前村】 なるほど

[1:24:47] 【堀田】 多分、今、JPNICさん随分時間使ってくださいってますけど、見る人から見ればlegitimacyがない。

[1:24:59] 【前村】 確かに。

[1:24:59] 【堀田】 おっしゃる通りではあるし、お金も大変だと思うのでなんか形はあった方がいいんだとすると、一番近いのはJPNICさんかJAIPAさんどっちかがタスクフォースを立ち上げてくれるみたいなのがいいのかなど。ジャストアイデアですけど思います。

[1:25:23] 【前村】 そうですねそれは半分はファンドレイジングの話でもあるし、小畑さん議論的にはどういう主体を形作るのかっていう話でもありますよね。

[1:25:48] 【堀田】 そうですね。それでいまのJPNICさんがJAIPAさんがと言ったのは、別にそれが2023以降もその形、どちらかに事務局があってTFを持ってるっていうことでなくとも、それはまた変わってもいいと思うんですけど、そこまで見越して今から組織作れっていうと、社団法人をこれから1個起こしましょうに近い話になっちゃうので、そうじゃなくともうちょっとクイックに行ける方法の方がいいんじゃないかっていうのが私の意見です。

[1:26:30] 【前村】 確かにIGTF(インターネットガバナンスタスクフォース)というものがありましたが、有志の団体が集う任意団体をで作って、そこに会費を入れるという形でファンドレイジングをしてでそれによって少し揚力を集めてという風なことで考えると、インターネット業界の業界団体協議会みたいなものに関してはよくある形ではありますし、そこに事務局を代行してやってくれる業者っていうのもいるというのは言いますよね。IGTFに関してはJPNICの方で事務局をやったというところはあります。

[1:27:25] 【前村】 確かに活発化チームっていうのは、個人で参加してその個人がみんなで何か検討しようよということでチャーターもできてますので、それとはちょっと別の動きっていうことになりますけど、そんな感じです。

[1:27:38] 【上村】 活発化チームが主催するっていうのもあっていいと思うんですけど、そうすると活発化チームっていう名前がなんか体を表わしてない感じがするんですが。オーナーシップを持つような名前に改めるべきなのかもしれないという風に思いました。活発化チ

ームっていうと、自分たちが主体になって何かをなすっていう風には私には思えないので、そういうのがあってもいいと思いますけど、知らない人が聞いたら何してるって思うと思うんですよね。IGF国内委員会とかでも名前が付いていれば、そういうことやるんだなっていうことに想起できるんですけど。それだったら前回と同じでできるってわけですかね。新たな箱を作る話はちょっと私にはどうしたらいいかって分からないので、私が言えるのはそこまでですかね。

[1:29:01] 【前村】 ありがとうございます。そうですね、報告会が軽いものだとするのであれば、わざわざファンドレイジングを意図するような、そうは言っても小さい組織立てを新たに作るということよりも、活発化チーム主催だと言ってやっちゃうっていうことの方が収まりがいいですね。そうするとこの前提はフルバーチャルでズーム使ってやれば完結するっていう風なことが想起されてるんですけども、そう思いました。オンサイトになる時にはちょっと面倒くさくなるんですけども、小さい規模、今までやってきたイベントのような小さい規模なんであれば、JPNICでもJAIPAでも確保されている予算が多分使ってできるんですけどね。

その他にこの辺ご意見ありますか？結構意見言う人があんまり多くはないっていう感じでいつも進んでるんですけども、他の方からも是非ともご意見いただきたいところではあります。

[1:31:16] 【前村】 今ここで決められるのかなっていうちょっと気がしてっていうのは、ここでは議論を一旦こう回して、それでメーリングリスト上でドラフトを見てもらって出てきてない方々にもご意見を伺うみたいなことをした方がいいんじゃないのかなと思ってらるんですね。そんな感じで違和感ないと皆さんいいですが。後そうですね、報告会の構成としては大体こんな感じで見つめていくとできそうだっていう感じだと思ってるんですよ、今。主催に関しては今は軽めだということで活発化チームでやりたいなという風な気がします。活発化チームという名前がねというか、上村さんのおっしゃり方は確かにポイントは分かるんですけど、それは別の議論っていうのか、Japan IGFをどうしていくかみたいな議論じゃないのかなという風な気がしていて、ちょっと話が絡み合いながら膨らんでいくんですよ。ちょっとそれは別に考えた方がいいのかなっていう気がするんですけど、考えなきゃいけないことだと思います。あとは日時、時期に関しても選択肢っていうのか、大体この辺で皆さんの何だろうな意向を確認して決めていこうみたいなことで、ある程度作っていききたいなと思うんですけど、日時はどれくらいのイメージを皆さんお持ちでしょうか。なんとなく

1月の後の方かなとかっていうイメージがぼやっと自分の中にありました。もうちょっと後かもしれません。今までの報告会は3月ぐらいにやられていましたよね。

[1:33:52] 【上村】 軽量級であるなら早めの方がいい気はしますよね。前回の議論の中で、大学の人に新しい研究っていうか発表させようとしたら半年じゃ短いところもありましたけど、もしそういうことを考えるんだったら、この時に次の年次会合的なもののアナウンスが日程ぐらいまでできるようにするとか、そんなイメージだとすると、そういうことも考えるとなると早い方がいいかな。時間経っちゃって報告会って言われても、ちょっと気が抜けちゃう気もするので。

[1:34:41] 【前村】 その他はいかがでしょう。であれば、今の感じだと1月の後半とかでいいんじゃないかっていう感じですかね？その他にご意見ありますか。

それでは今日のところは日時としては1月後半で候補を出して、そこから活発化チーム全体の意向っていうのをどうやってやるかっていうと、たぶんメーリングリストだと思うんですけど、調整をしていくという風なことでしょうか。今報告会案としてこうやって書いてあるものを一旦ある程度固められたところでメーリングリストで回付して、コメントをもらって次回で固めるというふうなイメージなんじゃないのかなと思います。それで1月末だとすると、12月20日なんでそれでカレンダー上1ヶ月ぐらいっていうふうな感じなんですけども、それでできるような軽量なことをやるっていうふうなことだろうと思います。ちょっと詰まっていますね。岸上さんお願いします。

[1:36:30] 【岸上】 私久しぶりに出てるので全体の流れを全然忖度せずに発言してしまいますけれど、先ほど山崎さんから紹介していただいた、2021のワークショップっていうやつですか、インパクトセッションクライメイトチェンジっていうのはまさにサステナビリティとかエネルギーの問題を多分議論する場なのかなと思って興味を持って読んでたんですけど、今回その報告会あるいはテーマのディスカッションとかってされる時に、どうやってテーマを選ぶんですか？すべてのテーマを網羅的に見るっていうのは、多分物理的に難しいような気がしてるんですけど。

[1:37:29] 【岸上】 もし誰かって方、他力本願になってはいけないんでしょうけれど、こういう所見られるっていうのはあらかじめ分かれば嬉しいなと思ったんですけど、その辺のプロセス分からずにちょっと質問させていただきます。

[1:37:53] 【前村】 前回の会合では公募にしたんですね。公募にして提案者に提案テーマを提案してもらったってことなんですよ。今回のものは、すいません、前回に公募にこだわったのは何でしょうね、インクルーシブにやろうと、National Regional IGF InitiativeということなのでIGFと同じ精神でやるべきだって言ってやったんですね。今回の軽量級にしてテーマの選択は軽めに主催グループが考えたものでいいんじゃないのかということなので、そこはこの辺のグループでじゃこれにしようかって言えば決まるんだと思うんですけど、そんなイメージだと私は思っています。

[1:38:52] 【岸上】 わかりました。イメージは分かりました。

[1:38:54] 【前村】 堀田さんお願いします。

[1:39:02] 【堀田】 おっしゃった通りだと私も感じてて、なのでIGFが終わるのが10日頃でしたっけ。だから次の週か何かに参加した人がわっと喋って、その次の週ぐらいにこれ面白そうですよね、これにしましょうって決めればいいのか？っていうぐらいに思っていました。

[1:39:25] 【前村】 はい

[1:39:26] 【堀田】 逆に言うと、その次の週ぐらいに決まってないと、1ヶ月ないですよ、きつとね。

[1:39:34] 【前村】 はいそうですね。

[1:39:36] 【堀田】 1ヶ月しかないので、そんな感じのスピード感かつ軽量さかなって思っています。

[1:39:45] 【前村】 ありがとうございます。次回会合みたいな話とも絡むんですけども、3週間のケイデンスというやつでやるとですね、12月の20日っていうのが次回のタイミングなんですよ。このタイミングでそういう話ができるっていうことにはなるんじゃないのかなと思うんですよ。そんなイメージですよ、堀田さん？

[1:40:15] 【堀田】 はいそうですね。20日に決めたいんだったら13から17にメール上でなんかやっという方がやっという方がいいですね。

[1:40:25] 【前村】 はい。20日はちょっと寸詰まりだから、27でしょう。17もちょっと。逆に週末、年末が迫っちゃってますから、我々は（オフィスを）引っ越ししてますね。そうですね、その覚悟が必要だということですね。13から17にこんな面白いですよと言ってメーリングリストで持ち寄るみたいな動きをやるんですかね。

[1:41:05] 【堀田】 堀田です。きっと岸上さんがこれやろうよとおっしゃるような気がします。

[1:41:13] 【岸上】 そう言われる危険性があるなど。

[1:41:21] 【岸上】 これレジストレーションせずに勝手にできるのですか？

[1:41:26] 【前村】 レジストレーションはしなきゃいけないと思いますが、簡単です。簡単というのか、少なくとも無料です。

ではそんな感じでやっていきましょかね。従って主催のところはひとまずは活発化チームということにするということで、この今の案としては固めるようにしましょかね。ちょっとだけ問題先送り感があるんですけど、それはそれで解決していかなきゃいけないですね。今日はIGTFっていうアイデアもいただきました。IGTFのような仕立てというアイデアをいただきましたんで、そういうふうなアイデアを少し書いてそんなのでどうかなという風なことも考えていったほうがいいのかというふうに思いました。

ほかにいかがでしょうか？そうですね、ではひとまずこれくらいのレベルの、上村さんまずは草案を起草していただいてありがとうございます。皆さんで話し合っこのくらいのレベルで出来上がったのでこれをメーリングリスト上で共有しながら、今日おいでにならなかった方々の意見も取り入れながらいう感じで決めていければいいかなという風に思います。ありがとうございます。

引き続きまして、カトヴィツェへの参加の計画の共有というのは前回やったことなんですけども、その他に実はこういうことになったよという風な共有があれば伺いたいと思うんです

けどもいかがでしょうか？今日の議論を踏まえると、IGFのセッションを結構つぶさに皆さん参加していただけてみて、それに対する感想とかですね、共有事項みたいなものは共有していただけたというのかなという風に思っていますので、どうぞよろしくをお願いします。

todoなんですけども、というのか次回会合はいつにするかというのは、今まさにお話をしていったように12月20日でやらせていただきたいと思いますが、よろしくをお願いします。

それで本格体制どうするのかっていう話は、今日何か出せるとしたらですね、すいません、私そのペーパーをなんか作ってくるようなことを前回申したような気がするんですけども、直前いろいろと昔というのか以前の資料を持って見ていたら、第1回から第3回においては割と長いタイムテーブルというのか、タイムラインを引いた資料とかありましたので、それを共有してどうしていくんですかねみたいな話をしたかったところではあったんですけども、そういった話は多分今日ではなくてもう次回にやった方がいいのかなという風な気がしています。今日の堀田さんのIGTFみたいなアイデアっていう風なこともいただきました。その辺をちょっと落ち着いて考えて今度こそは何か準備をしたものをお出ししたいなという風に思っております。ご指摘、ご質問などこの時点であればいただきたいと思いますがどうでしょうか。それでは今日少し早くなっておりますけども、この辺で次回に向けてというのか、12月20日にIGF報告会のことを検討するというので色々と決めるということで、それに合わせてそれ以降どうしていくかっていうのもお話できるということで、今日はお開きにしようかなと思っておりますけども、最後に何かあればいただきます。如何でしょうか。

それでは皆さんご参加いただきましてありがとうございました。引き続き色々と考えていきたいと思いますということで本日はありがとうございました。これにてお開きにしたいと思います。